

## (6) 北東地域への移転の意義について

### 想定課題

なぜ、利根川から北の北東地域に移転する必要があるのか。

#### 対応方向

国会等移転の意義の一つに、東京一極集中の是正による多極分散型国土の形成があります。

平成10年3月に閣議決定された新しい全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン - 地域の自立の促進と美しい国土の創造 - 」においても、「国民意識及び時代の潮流の大きな転換を踏まえ、21世紀の文明にふさわしい国土づくりを進めていくためには、国土構造形成の流れを太平洋ベルト地帯への一軸集中から東京一極集中へとつながってきたこれまでの方向から明確に転換する必要がある」としています。

さらには、東北地域は「21世紀に向け調和のとれた新しいライフスタイルが展開されるフロンティア」、北関東地域は「東京圏との近接性、製造業等の集積や豊かな自然を生かした発展可能性の高いフロンティア」とされており、北東国土軸という新しい国土軸上にある北東地域は、まさに、国土のフロンティアと位置づけられています。

国会等の移転により、東京圏をはじめ太平洋ベルト地帯における負荷が軽減され、地方分権の推進等の国政全般の改革と相まって、全国において多様な極、地域がそれぞれの特性を生かして独自の役割を発揮しつつ連携・交流する「多軸型国土構造」の形成が促進されることとなります。

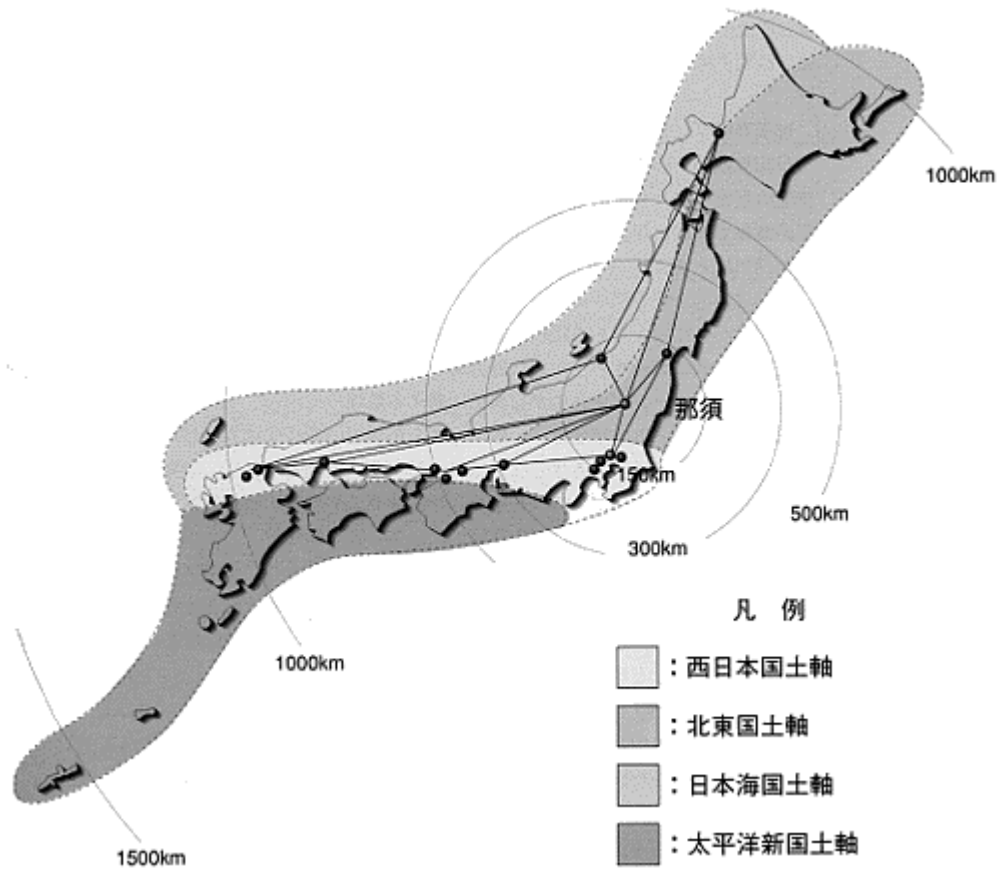
特に、国土のフロンティアである北東地域が移転先となることによって、こうした効果がより強く発揮されることになり、太平洋ベルト地帯に偏った国土利用のあり方がゆるやかなペースで是正され、長期的に均衡ある国土利用が実現されるものと考えられます。

さらに、北東地域は、豊かな水と緑に恵まれ、21世紀に求められる自然環境と共生した都市づくりが可能であるほか、地震等による大規模災害の恐れが少なく、また、東京との同時被災の可能性が低いなど、国会等移転の持つ意義の達成に大きく貢献できる地域でもあります。

こうしたことから、移転先地として最もふさわしい利根川から北の北東地域に、国会等を移転する必要があると考えます。

そこで、宮城、山形、福島、茨城、栃木の北東地域5県では、「栃木・福島地域」への移転の意義・効果や北東地域の将来像などについての調査・検討に連携して取り組んでいます。

新しい国土構造のイメージ



4つの国土軸は明確に区分されるものではないが、イメージしやすいよう表現している